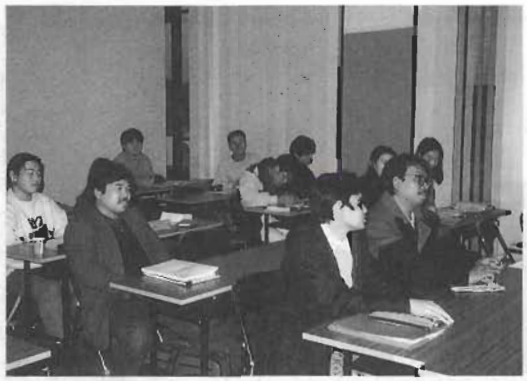
就職か進学か ―院生の選択―

中島英紀
（国際協力研究科博士課程前期二年）



この文章は、国際協力研究科の院生の総意を代表したものではありません。単なる一人の院生の少ない経験をもとにしたささやかな意見ですので、はじめにお断りしておきます。

就職か進学か

最近は、学部を卒業しても就職が難しいというご時世なので、「まあ大学院にでも入るか」という方も多いだろうと思います。しかし、その軽い気持ちがその人を苦難の道に引きずり込んでしまうかもしれません。大学院に入っても就職をどうするかという問題はつきまとってくるからです。

就職するか進学するかという問題は院生にとって重要です。あまり偉そうなことはいえないのですが、大学院に入ろうとするなら、それなりの覚悟が必要だと思います。とくに、博士課程の前期を終えてどうするかを考えておいたほうがいいと思います。そのまま博士課程の後期に進学するのか、それとも就職するのか。大学院に入っても、自分の将来についての選択の問題はなくなりません。

この国際協力研究科は創立されたばかりですから、就職先の分野はまだまだ未開拓です。国際協力研究科を紹介するパンフレットには、いちおう修了後の進路として「政府開発援助機関」「研究教育職」「官公庁」「国際機関」「シンクタンク」「民間企業」「非政府組織」「外国政府諸機関」などが取り上げられています。しかし、卒業したからといって、簡単にこうした所に就職できるわけではありません。あたりまえのことですが、就職活動は個人的にがんばらないといけません。

しかし、「民間企業」への就職には就職難という状況があります。それでは、「官公庁」はどうかというと、公務員試験の競争率はものすごく高くなっています。就職が大変なら、また博士課程後期に進学すればいいじゃないかということになりそうですが、たとえ博士課程の後期に進学したとしても、結局は将来的には就職しないといけないので、単に問題を先送りにしているだけのことです。

後期進学のための「総合試験」

さらに、国際協力研究科の博士課程後期に進学するにあたっては、具体的な難関があります。それは「総合試験」と呼ばれるものです。この試験を突破しなければ、博士課程後期への進学は認められません。私も九月におこなわれたこの総合試験を受けたのですが、簡単に仕組みを説明すると、博士課程前期の学生が三科目の論述試験を受けて、博士課程後期に進学する資格があるかどうかを判定されるというものです。ちなみに、私は勉強不足のため不合格となりました。

しかも、この総合試験を受ける機会は二回しかありません。たとえば、私の場合には、九月の試験に不合格でしたので、私に残された受験の機会は残り一回ということになります。そして、もし次の試験も不合格となれば、もう博士課程後期に進学できる可能性はなくなるということです。

九月におこなわれた総合試験では受験者の約半分しか合格していません。不合格者で次回の総合試験を受けようとする人は、おそらく二月の受験になるはずです。そのため、私も含めて二月の総合試験を受けようと考えている人たちは、この試験勉強と修士論文の執筆を同時におこなわなければなりません。今年が初めての総合試験だったので、このようなことになったのですが、今後、この制度が軌道に乗ってくれば、一年次の終わりの二月に総合試験に合格して、二年次の一年間を修士論文の執筆のために有効に使うということも可能になるはずです。

ですから、一年次にしっかり勉強しておけば、二年次には負担を減らすこともできますので、意欲のある方はがんばってください。

「英語力」の必要性

それでは、一年次の勉強でがんばるためにはどうすればいいのか。そのひとつの鍵となるのが「英語」です。国際協力研究科の授業のなかには、英語による授業もあるからです。この英語による授業については院生のさまざまな意見がありました。たとえば、平成六年の十月に国際協力研究科の開発科学専攻の第一期生（回答数十九人）を対象におこなわれた授業についてのアンケートをみてみましょう。

その項目のひとつに「授業全体についての要望と提案」というものがあるのですが、そこにあった意見をいくつか紹介してみると、「入学以前には、英語を主体とした授業がかなり行われると期待していたが、前期に受講した科

目では、そのような講義は皆無であった」「英語で講義するという件について、私の知るかぎり一つもなかった。英語のテキストを読むというのが唯一英語を使った講義で、それも非常に英語を使う度合いが少なかった」「英語での授業を増やして欲しい」「私自身、負担になるのですが、でも英語の授業を増やしてほしい」などがありました。

このように、昨年までは英語による授業はまだまだ一部に限られていました。しかし、今年あたりから英語を主に話す留学生の方々が増えてきたため、今では英語による授業は十七科目にまで増えているようです。私も英語による授業を受けてみて、自分の英語の表現力の貧しさを痛感しています。とくに、英語で議論をしていくうえでは、「聞いて話す」力をつけることは絶対に必要だと思いました。

人が話していることを理解できなかったり、自分の言いたいことを言えなかったりすることは、本当に悔しいものです。ですから、学部生の方で国際協力研究科への進学を考えている人は、英語の勉強をしっかりやってください。

「英語」は勉強のための道具にすぎないかもしれませんが、しっかりした道具を備えておくことは無駄ではありません。語学の勉強は時間がかかるので、若いうちにやっておいたほうがいいと思います。

本人の「やる気」

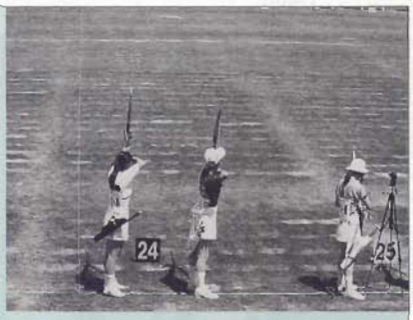
また、国際協力研究科の授業のなかには、成績評価のための試験をおこなっているものもありますので、入学しようと思っている方はくれぐれも注意してください。もし大学院に入っても勉強したくない方は、国際協力研究科を選ばないことをおすすめします。ただし、すぐに就職しようと考えている方は選んでも問題はありません。しかし、手を抜きすぎないように気をつけてください。

あまり夢のない話ばかりになってしまいましたが、大学院で勉強していくうえで大事なのは本人のやる気だと思います。もちろん、勉強していくうえでは、調子のいい時もあれば悪い時もあります。それに、就職するか進学するかという進路の問題もあります。そういう問題があることを忘れてはいけませんが、とりあえず、何よりも勉強が好きで大学院に入ろうと考えている方は、ぜひ国際協力研究科に挑戦してみてください。

知る喜び、学ぶ喜びがあれば、どんな所でも勉強はできます。学問をやろうとする意志があれば、道は開けてくるかもしれません。

プロフィール

（なかしま・ひでき）
◇一九七二年生まれ
◇福岡県出身
◇専門として国際政治学を勉強中
◇とくに今は、修論のテーマとして国際組織論に取り組んでいます
◇趣味は乱読です



国体アーチェリー少年女子団体優勝！
―一射に心をこめて―

附属高等学校二年　岩重　景

「明日の天気予報は雨なんだ。でも、風が吹くより、雨が降る方がいいか」。チームの三人で話しながら、試合前日、私はテレビを見たいのを我慢しながら、就寝しました。

翌十月十七日、五時三〇分起床。窓の外を見て、「雨が降っていない」と喜びました。しかし、朝の散歩と体操のために外に出てみてびっくり！すごく強い風が吹いていました。散歩と体操の間、ずっと心の中で「大丈夫。射つ時になれば、こんな風止んでしまうよ。朝のうちだけ」と思いながらも、ずっと不安でした。

そして出発。試合会場に着いても風は止みませんでした。周囲の人たちが、「風が吹いているのは広島県だけじゃないんだから」と励ましてくださった。試合開始まで少し時間があったので、私は友だちからの手紙を読みました。そして、いろいろなことを思い出して自分を励ましました―自分は、ぜったい誰よりも練習しているはず。だから。落ちついて射てばぜったい当たるんだ―。

私は射ち始めました。一本目はおおきくはずれました。たぶん、それで、不安な気持ちが全部ふっきれたのだと思います。なぜか、試合の時の一本目をはずすと、緊張している自分がバカらしく思えてくるんです。そうして射ち続けて、速報を見てみると、広島県が一位でした。「風の影響はみんなじゃないか」。あらためて当たり前のことに気づいて、もっと落ち着きました。終わってみると、少年女子団体優勝という結果が出ていました。

最後に、いろいろ教えてくださった先生がたや先輩、ありがとうございました。一緒に練習したクラブの友だちありがとう。私は、これからももっともっと頑張って、日本一のアーチャーになりたいと思っています。

（いわしげ・けい）

【編集部から】

岩重さんは、広島市で生まれ、現在附属高校二年。同校アーチェリー部OBの叔父の影響でアーチェリーを始める。ただいまアーチェリー歴二年。悩みは、名前だけを読んでときどき男子生徒と間違われることだとか。普段はエレクトーンの演奏が趣味の、実はしとやかで、かわいい乙女です。

優勝の感激（本人右端）